



ケガの原因2：転落

～全年齢層で多く発生しています～

1 実際の事故事例

高齢者 【65歳以上】

- 階段を下りる途中、足を滑らせ転落し、頭と腕をケガした
- 椅子の上で、電球交換をしている際に、バランスを崩し転落し、頭と腰をぶつけた
- 脚立の上で伐採作業中、バランスを崩し転落し、腕を骨折した
- ベッドから起き上がろうとした際に、ベッドから転落し、腰の痛みにより動けなくなった

大人 【18歳～65歳未満】

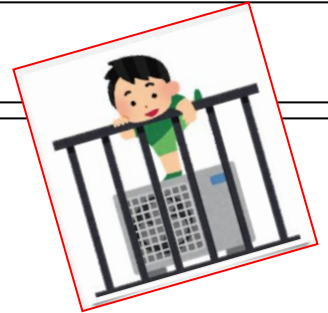
- お酒に酔って駅のホームから転落し、頭をケガした
- 洗濯物を抱えて階段を下りていたところ、足を滑らせ転落し、腰や足をケガした

子ども 【7歳～18歳未満】

- 雲ていから誤って転落し、顔をケガした

乳幼児等【0歳～7歳未満】

- 高さ2mの滑り台から転落し、顔と頭をケガした
- 高さ80cmのジャングルジムから転落し、腕を骨折した
- 高さ1mの椅子から転落し、頭を強く打ち嘔吐した
- 高さ1mの机から転落し、頭をケガした
- 柵なしベッドに寝かせていたところ、寝返りを打った際に転落し、頭と背中をケガした
- 自宅2階の出窓から転落し、頭と腕をケガした



2 予防と対策

☆階段には手すりや滑り止めをつけましょう

- 転落防止のため、階段を移動する際には手すりに掴まる等で、転落を防止しましょう。
- 両手に荷物を持ったままの、階段の移動はやめましょう。

☆バランスの悪いものには乗らない

- 椅子の上立つとバランスを崩しやすいため、乗らないようにしましょう。

☆子どもが登れるものを置かない、子どもから目を離さない

- 子どもは成長とともに、何処へでも行きたがるようになるため、窓際やベランダなどに踏み台になりそうなものを置かないようにするとともに、子どもの行動には十分注意しましょう。

☆ベビーベッドには必ず柵をしましょう

- 子どもは寝返りのほか、柵を乗り越えて頭から落ちてしまうことがあるため、ベッド柵は必ず上げましょう。

子どもは、身体と比較すると頭が大きく重いため、大きなケガになることもあります。また、転落の事故は、大人が目を離した際におこるため、目を離さないようにしましょう。

家の中は、子どもの目の高さで危険がないかチェックしましょう。

「予防救急」を始めましょう